

令和5年12月6日

東伊豆町議会
議長 笠井 政明 様

文教厚生常任委員会
委員長 西塚孝男

議員派遣結果の報告

令和5年第3回定例会で承認された議員派遣の結果を報告いたします。

記

- 1 目的 文教厚生常任委員会による先進地視察研修
 - (1) 水道事業の取り組みについて
 - (2) お出かけ支援事業について
- 2 派遣場所
 - (1) 和歌山県那智勝浦町
 - (2) 三重県紀北町
- 3 派遣期間 令和5年10月23日(月)～25日(水)
- 4 派遣議員 西塚孝男、山田直志、山田豪彦、楠山節雄
稲葉義仁、須佐 衛
- 5 派遣内容
 - (1) 那智勝浦町の水道事業の取り組みについて
 - ア 那智勝浦町の概要
那智勝浦町は、那智山の門前まち那智町、温泉と漁業のまち勝浦町など4ヵ町村が合併し誕生した。その後、下里町と太田村が加わり現在の姿となっている。紀伊半島の南東端に位置し、那智の滝や富士山の見える最遠の地(322.9km)であり、延縄漁法によるマグロの水揚げなど、5つの日本一がある町で、面積183.31km²、人口14,0

36人である。

産業別構成は第1次産業（4.92%）第2次産業（13.38%）第3次産業（78.83%）その他（2.87%）となる。

温泉旅館等は56施設で、観光客数の内訳は、宿泊客は225,690人、日帰り客は636,558人となっている。

※令和3年：ホテル・旅館16軒、民宿8軒

イ 事業の概要と質疑

①給水 昭和32年4月1日供用開始

計画給水人口17,270人 現在供給人口14,238人

②施設 水源：表流水 施設能力：14,200m³/日

浄水場施設：3箇所 配水池施設：13箇所

管路延長：172km

③水道料金 家庭用 基本料金 10m³ 1,100円

超過料金 1m³ 150円

業務用 基本料金 15m³ 2,600円

超過料金 1m³ 240円

※料金改定年月日 昭和60年4月1日（消費税改定のみは除く）

④質問

問：職員9人体制での管理、事業執行に問題は無いか。災害時は。

答：浄水場3箇所のうち、2箇所は管理委託している。もう1箇所は無人で平日は塩素補充の確認を行っている。

課長、副課長、工務係4人（施設担当2人）業務係3人で、災害時等は、課長と工務係が被害確認と業者の手配等を行い、副課長が災害対策本部対応や工務係との調整、業務係が水道協会への派遣要請や給水体制の確立などを担っている。

問：一般会計出資債の検討をされたようだが内容は。

答：令和2年度の配水池築造時に県の市町村課から一般会計出資債の話があり、副町長、財政当局に相談したところ、交付税措置があることから一般会計出資債を活用した。

問：町内2つの簡易水道事業を統合したことによるメリットは。

答：上水道会計、簡易水道会計を統合したことにより、会計事務、資産管理の一元化ができた。これにより、維持管理コストの軽減が図られている。

問：水道料金の改定に向けて、住民や事業者から理解を得る取り組みや工夫は。

答：令和５年度に水道料金審議会を立ち上げている。区長連合会、商工会、旅館組合から委員を推薦していただき構成している。住民には、今年３月の広報紙で水道の現状を特集し、今後は審議会の内容を掲載する予定である。

問：施設売却も検討しているようだが、進展は。

答：統合により不要となった施設、現在、利用頻度の少ない施設の洗い出しを行い、売却できないか検討している。

ウ 感想・意見

①管理体制の効率化に向けた継続的な検討を

那智勝浦町では浄水場の更新にあわせ、警備会社や職員OBに管理を委託していた。管理の在り方は効率化を見据え、絶えず見直しを検討していくことが必要である。

②県をはじめとした関係機関との連携強化を

那智勝浦町では、令和２年度に一般会計出資債を活用して事業を行った。このきっかけは、県からのアドバイスであった。当町でも、相談や経営診断・指導等を通じ、静岡県等の関係機関との連携強化を図るべきと考える。

③水道料金以外の財源確保の調査・研究を

町の水道事業は、老朽化により今後膨大な施設整備費が必要となっている。これを「独立採算」の理念だけで進めていくのは現実的ではない。補助金の獲得、一般会計出資債の活用、繰入金の見直しなど、町民及び事業者の負担を軽減するための財源の確保を課題として、あらゆる角度から調査・研究をされたい。

(2) 紀北町のお出かけ支援事業について

ア 紀北町の概要

紀北町は、平成１７年１０月１１日に旧紀伊長島町と旧海山町が合併し、人口２０，８３１人、面積２５６．５３ｋ㎡の新しい町として誕生した。

前面（東）に黒潮おどる熊野灘、背後（西）には日本有数の原生林が残る大台山系などの豊かな自然に囲まれ、古くからその恵みを活かし、水産業・林業などの産業を中心として発展してきた。森林が、町全体の８９．４％を占めている。

なお、令和５年３月３１日現在の人口は１４，４０３人で、高齢化率は４５．８％である。

産業別構成は、第1次産業（3.82%）第2次産業（11.00%）第3次産業（43.40%）その他（41.78%）となる。

※交通状況：高速道路 紀勢自動車道 IC2箇所
 国道3路線 県道10路線 道の駅2箇所
 JR紀勢本線4駅 バス三重交通4路線 タクシー無し
 コミュニティバス いこかバス 2路線 各5本運行
 海野線 月・木運行 1,148人
 便の山線 火・金運行 910人
 （令和4年実績）

イ 事業の概要と質疑

おでかけ応援サービス「えがお」 令和2年8月から本格運行

- ・運行時間 午前7時～午後8時
 ※早朝と夜間の依頼は前日までに予約。
- ・紀北町内全域
- ・初乗り10分600円（1分ごとに100円増）
- ・自分で乗降できる方、荷物を持てる方を対象
- ・65歳以上の高齢者、運転免許自主返納者には特典あり
- ・交通空白地有償運送制度を活用している。

①令和4年度実績 海山地区 771回 920人
 紀伊長島地区 5,039回 5,831人
 合計 5,810回 6,751人
 1日平均 18.81人
 （早朝運行 163回 夜間15回）

②利用目的（令和4年度実績） (人)

買い物	通院	交通接続	帰宅	観光	その他	計
862	963	271	2,468	65	1,181	5,810

③運行費用 29,871千円 (千円)

人件費	運行管理業務委託	運転業務委託	その他経費
18,934	2,587	3,839	4,511

④財源内訳 30,577千円（配車センター維持費含む） (千円)

運賃収入	国庫補助金	一般財源	配車センター維持費
3,015	3,362	23,494	706

⑤質問

問：運行時間が長いが、運転手の確保をどのようにしたのか。

※当町の移動支援事業（以下：当町の事業）は、ボランティアの運転手数人で運行。

答：運転手は、会計年度任用職員3人と福祉タクシー会社からの派遣で対応している。

問：料金設定の考え方は。

※当町の事業は10分100円、20分200円。

答：運賃はタクシー運賃の2分の1を目安とすることが示されているので、町内の福祉タクシー、タクシー・バスの運賃を参考に算出している。

問：車両を町で購入した経緯は。

※当町の事業は、ボランティアの車を使って支援をしている。

答：事業はリース車両で行っている。委託運営等できる事業者がなかったため、町が事業主体となった。オペレーター2人を含めて集落支援員を任用することにより、人件費や運行経費について特別交付税措置を受けている。

問：問題点や課題は。

答：運転手、臨時職員が退職した場合、免許や講習が必要な新規のドライバーの速やかな確保が課題である。また、要介護等の方は利用できない。高齢化が進む中、利用対象から外れる時に、福祉タクシーへ切り替える判断が難しい。

ウ 感想・意見

町民にマッチした制度の設計を

紀北町の事業は、実証実験の結果を踏まえ、運転手3人及びオペレーター2人を会計年度任用職員とすることにより、安定した運行体制を整えていた。

事業実施できた背景には、国庫補助金（地域内フィルダー系統確保維持費国庫補助金）及び一般財源のうち、特別交付税で措置される集落支援員を活用しており、財源もよく研究し事業を設計していた。事業の実施に当たっては、周知の状況、運転手の確保と声、財政負担等を考慮し、総合的に判断することが重要であることを再認識した。

